

第1回新ホール早期整備プラン意見交換会 議事概要

<開催要領>

日 時：令和6年11月19日（火）18時00分～20時10分

場 所：徳島県庁11階 審問室

出席委員：生駒元委員、佐野靖委員、檜千尋委員、山中英生委員、吉森章夫委員

<会議次第>

- 1 開会
- 2 委員の紹介（自己紹介）
- 3 委員長選出
- 4 議事
 - （1）新ホール早期整備プラン（骨子案）について
 - （2）その他
- 5 閉会

<配付資料>

次第

配席図

- 資料1 新ホール早期整備プラン（骨子案）
- 資料2 県内主要文化団体へのヒアリング結果
- 資料3 新ホール早期整備プラン意見交換会 設置要綱
- 資料4 新ホール整備候補地調査の結果（令和6年6月）
- 資料5 新ホールにおけるソフト面の可能性に関するヒアリング結果（令和6年9月）
- 資料6 県市協調新ホール整備基本計画（令和3年3月）
- 資料7 新ホール周辺図

<議事概要>

【事務局】

(委員紹介 ほか)

【事務局】

それでは次第に従いまして、委員長の選出に入りたいと思います。

資料3にございますけれども、意見交換の設置要綱、第4条第1項によりますと、互選により、委員長を定めることとしております。皆様、いかがいたしましょうか。

【生駒委員】

徳島市のホールの検討委員会のときからずっと携わっていただいて、委員長をしていたいた山中先生にお願いするのが一番じゃないかと思っておりますので、みなさん、いかがでしょうか。

(拍手)

【事務局】

それでは山中委員にご就任いただくことといたします。山中委員長、ご移動をいただきますようお願いいたします。ここからの議事進行につきましては、山中委員長よろしくお願いいたします。

【山中委員長】

それでは、用意していただいている資料、議題1の資料ですね。事務局からご説明いただいてもよろしいでしょうか。

【事務局】

(資料1 「第1 これまでの取組・現状」～「第2 基本的事項」について説明)

【山中委員長】

どなたか意見ございますでしょうか。最後、交通アクセスのところですが藍場浜の駐車場がどれくらい残るのか分かりますでしょうか。

【事務局】

大体東エリアの方で200台ぐらい、西エリアの方で95台ございまして、この西エリアの地下を壊しますと約95台減るというふうな見込みで考えておるところです。

【生駒委員】

今の駐車場の問題なんですけど、徳島交響楽団があわぎんホールで演奏会やっておりますが、お客さんの一番の苦情は、駐車場がないと。車置こうと思ったらもう最初から満杯になってるということがよくありまして、どないしたらいいのかという。

ここに郷文のいろんな鉄道・バスとかがありますが、現実問題として徳島、まず鉄道でこう動いてるのは非常に少ない。それでほとんどの方でどちらかといえば自家用車。だから駐車場は案外、簡単に済ますとなるようなものではないと思うので、できるだけこの周辺で、どこか県営の駐車場と同じように利用できるとか、何か考えてもらわんと大変だと思います。私もこの夏にちょっとバレエの演奏で3日ほど夏に利用しようとしたら、皆、平日だったけど満杯でした。これから少なくなった分だけでなく普段から結構多いです。だからホール利用する人が本当に利用できるのかなと。ないのと一緒にないかなというぐらゐの感覚です。できたらそういう駐車場周辺にできたり、藍場浜の駐車場も含めて、ホールを利用する人には割引券出すとか、そんなことをこれから考えていく必要があるんじゃないかと。ぜひ、駐車場は真剣にかなり考えて欲しいなと。

【吉森委員】

これについてはこの間、郷文の主催で邦楽関係の催し物やったけど、1時間前に行ったらもう駐車場は全部、シャットアウトして置くとこないんですよ、全く。佐古の一番町まで置きに行った人がいるわけ。そこまでいかなかったら、どこも空いてなかった。だからそういうことを思うんで、駐車場を潰すってのは大問題ですね。おそらく郷土文化会館が使えなくなってくる。逆に駐車場のために。郷土文化会館もちょうど駐車場の地下から出てきたら屋根があって、今は全部傘なしで。前は出てきたら大雨が降ってて、どこも行けない、傘なんか持ってきてないから、そういうことだったけど、地下駐車場を使うようになって随分と楽になったと思いますね。

それを皆潰してしまうっていうのはどうか。郷文はもう捨てろっていう感じでね。だってもう、どこに置くっていったって、今でも困ってると。駐車場がないから、みんな信号超えたらすぐ左に入るんですよ。左入って、郷文の駐車場の方へよくお巡りさん来てるから、なかなか置けないし、大変なんですね。あそこでもうみんな混み合ってるんですよ。左入った途端にもういっぱい、今度バックするたってどうにもなんないというようなことを思ってますね。

だから駐車場については考えていかないとホールは成り立っていかないと思いますね。やっぱりせっかく傘がなくても行けるようにしてくれたんでね。あれ1億円かかると思うんですよ。8000万ちょっとね。あれやないと、郷文が困ると。それだけ皆が恩恵をこうむったんですよ。大体催し物があると駐車場は満杯ですよ。だからそういうこと考えないとね。簡単にね、10何億円かけてやね、駐車場を潰してしまうという、私はそのセンスはよくわかんないね。

それからもう1つね、公園ってそんなに簡単に潰せるのかなと。郷土文化会館を建てるときに、突然話が出てきたもんだからね、どこへ置くか、あそこって言うたら、公園で駄目なんだということになって、あの隅ならということでしたんですよ。だから、公園っていうのはね、やっぱり人口比に応じて、これだけの公園いりますよと、管轄どこなんですか公園っていうのは。

【事務局】

都市計画課です。

【吉森委員】

計画したって、そこでアウトになったらね、代わりの公園つくってくださいと。それだけの認識なんでしょう。だけどそれは厳しいんですよ。徳島の人あんまり普通に山があって気にしてないけど、東京あたりはビル建てたら必ず緑いれないと許可にならないからやってますけどね。

【山中委員長】

都市公園上の規制についてはクリアできると。

【吉森委員】

だからそれをまず調べる必要があると思うんですね。公園がどうなってるということ。

【事務局】

都市公園については、直接の所管は県土整備部になります。我々が考えている予定地がどういう位置づけのものということは認識していますので、計画を進めるにあたっても、県土整備部とも、情報共有しながらやっていっています。

ただ、都市公園法上の扱いにつきましても、考え方、方法は1つではございませんので、どのやり方がベストなのか、この対応と今後の計画の具体化、これを合わせてしっかり調整していきたいと考えています。これがもし成り立たないものであれば、この場所での計画、骨子案出しておりませんので、可能性を十分踏まえながら、進めていきたいと。

【山中委員長】

規制については緩和する方向で検討してと。

【事務局】

そうですね。都市公園法上の建坪率であるとか、区域の話もございます。この辺もしっかり整理していきたい。

【山中委員長】

駐車場の話はおっしゃるように、どう考えても不足するんですけども、重要なのは行って停められないということなんですね。だから、事前情報、それから場所によっては、この周辺の駐車場すべて予約できると、コンサートする日については、全部事前予約してくださいというやり方にすると、確保できて人しか行かないというふうになりますので。そういうやり方もありますので、もう少し、ソフトで工夫していただくといいかなと。

【吉森委員】

それとね。藍場浜っていう場所。団体が使わないと駄目なんですね、ホールは。団体は大口ですよ。はっきりいって。それで必ずバス来ますよね。バスはどこに置くのか。前の道で乗り降りできないですよ。

【山中委員長】

そういうものをちゃんとですね。確保できるようにしてあげるといこともかなり大切なことだと。

【吉森委員】

どこでもホールはちゃんとバスが停めれるようにしないと、中学生や高校生の吹奏楽だって、あんだけの楽器積んでやね、トラックで一緒に行ってやってるけど、車を置けないととんでもない。

【山中委員長】

パーク＆ライドって送ってくる車があるので、その人たちの乗り降りする場所も結構、重要になってくるんじゃないかなと。

【吉森委員】

なんで文化センターの後からずっと警察のこっちまで使っちゃいけないんですか、徳島市の中心に在るっていうけど、中心たって徳島狭いからね。あそこ、線路になつたらね、はっきりいって徳島の中心ですよ。

だから、こういうところを受けてやね、徳島市の中心だから、例えばね、あそこに建つて話が、あの辺の商店の人がぜひこれを作ってくださいと。あそこ行つたらね、商売が繁盛するといってるんだよね。でも繁盛しとるとこないですよ、音楽ホールのそばではね、商売成り立っているとこないんです。全国どこにも。フェスティバルホールだけはそういうビルにホール作つたから、商店がいっぱいあるんですよ。だから、あそこ行つたらいろんなもの買えるんだけど、他のとこ見たらね、ホール建てたら周りは何もないですよ。実際、全国見てみたら、ホールの側に何も商売成り立ってるものないですよ。だから、それはやっぱり考えてもらわないと。催し物あつたら、少々遠いところだつて行くわね。あそこの文化センターの跡地なんか、市内の真ん中ですよ。はっきり言ってね。駅が見えてんだもんね。

【山中委員長】

ホールがにぎわいをもたらすかどうか、いろいろ議論があつて、大ホールだけでは多分駄目なので、おっしゃるような小さな部屋が毎日使われているというような状況になつたり、ホール自体が集まる場所として使われることが結構重要ですよ。最近物販はもう無理なので、ここで飲食をどういう形で展開できるかというふうに考えてるんです。だからホール前に車で来ないって言ってるんですけど、周りでやっぱり飲食、ちゃんと広げていって公演前に食事したり、終わってから食事したりするような文化が、海外には普通にあるんですけど、日本はどうしても車でピッと行つて終わつたら帰っちゃうみたい。そうすると吉森先生おっしゃるように、典型的にそういう形になってしまうので、そうじゃないホールにしたいなと。

【吉森委員】

ホール作ったら逆に廃れますよ。

【事務局】

ホール自体に人が来てくれるようなホールにしないと、そもそもホールとしてだめなので。少なくともホールとしてはそこを頑張って、まずホールに人を呼ぶと。すると、もう最低限ホールが果たす役割として、人の流れができますよと。

【吉森委員】

毎日行くんじゃないからね。文化センター跡地になったから遠いから行かんわって言う話ではないと思うんですよ。

【生駒委員】

今の話、その通りだと思うんですけどね。一応とりあえず藍場浜ということで検討するんであれば、せめて駅から濡れずに、ホールまで行けるような何かアーケードに近いような何かそういうものが必要でないかと。そうでないとやっぱり、このホール行くのに大体どこでも駅とそのまま繋がってたり濡れずにホールに入れるんですよ。

【吉森委員】

これもうバスであんなところ行く人はほとんどいないんですよ、はっきり言うて。

【事務局】

地域によりますが、生駒先生おっしゃる通り、例えば、我々も現場、全国のホール回って見ていますが、最寄りの駅からずーっとデッキで接続している。また、地下鉄の駅からすぐ上がれるっていうのがあります。今回の計画でどこまでっていうのありますけど、やっぱり利便性というのは重きを置いてやっていけたらと思います。

【生駒委員】

せっかく駅の近くをアピールして、そういう意味で作るんであれば、そういうのが絶対要るんじゃないかなと思います。

【檜委員】

本当に駐車場問題は、車で行くので。一昨日、バレエの合同公演があったんですけど、やっぱり、郷文はお客様が来るときに本当に混雑して、年配の方や体に不調のある方が車を停めるところがないんですよ。行こうと思ったらまたカートで杖をついて、送迎のときも車が停められるところがない。車いすの方とかのことを考えた場合、本当に乗り降りができないので、そういう場所も必要で、駐車場は大変でした。

あとすごく根本的なところなんですけれども、西新町のときからやっぱり社会包摂は、にぎわいっていうことに繋がると思うんです。活動室などがたくさんあって、普段、ホールが稼働してないときでも、ホールを使わない方でも誰でもいける。老若男女いろんな方

が行かれるようになっていう施設が西新町だったと思うんですね。それがどんどん縮小して、小ホールも危ういっていうぐらいになってきて、稼働率と、にぎわいって考えたときに、活動室とか文化団体の方、ギャラリーとか、そういう施設。また文化って何だろうっていうことを含めて、今回のホールっていうものを進めていかないと、文化って贅沢品とか趣味嗜好でやってるもんだから関係ないよってという意見もあると思うので、そうではなくて、ドイツの統一があったときに、大統領が文化っていうのは贅沢品じゃなくて、お金は高くつくけれども精神的な基盤である、生き抜く力に対して必要であるということを書いてあるんですけど、やっぱりそういうことを、もう一度、県民の方、藍場浜だからどうかって言う以前に、文化が危機的な状況になってるんじゃないかと思うので、そこをもう一度、県からも発信していけるように。ホールがどうして必要かっていう、本当に基本的なところを、訴えていって欲しいなと思います。

ホールに防災面が必要と同じで、精神面の基盤になってるんですと。そういうものが基盤になって大事ですっていうところを、もちろん教育面も含めて、この資料に教育という言葉が少ないので、どうしてかなって思いながら、教育面でもやっぱり、小さな時から触れていく、芸術に触れる大切さがあると思います。そういうものも、訴えていきたいなと。藍場浜どうこう以前の問題なんですけれども、お願いいたします。

【吉森委員】

平成19年ぐらいの動物園跡地で、3年間やってですね。そしたら、高松はね、すぐ出来た。湾岸整備も含めて、汽車もちゃんと港まで行くし3年で、徳島は3年目であかんようになった。それがもう何十年も続いているわけですよ、これ。それで、あのときは音楽ホールという名前は辞めようということになったんですね。音楽ホールになんでこんなに金いるんだと。文化ホールにしたらいいと。そしたらもう文化ホール、文化会館ですね、東京文化会館も東京音楽ホールって言わないでしょ。だから、特に田舎ではね。そんなこと私は聞いたことないのにと。ネーミングもちょっと問題なんですよ。

【事務局】

今、吉森先生や檜委員が仰っていただいたこともそうなんですけど、活動室等の話も、後で施設規模とか構成が出るんですけど、基本的に旧文化センター跡地で考えていた活動室、練習室の数みたいなものは確保しようと思っています。

リハーサル室、多目的スタジオ等に関しても変わらず置くというところで、やっぱり稼働率の話もありましたけど、大ホールの客席舞台だけではなくて、日頃から足を運んでいただけるように、必要なものがあれば、というところと、あと、また、後段でおっしゃっていただいた、文化全般に果たす役割、これは施設の使命とか、あと県立ホールであることということもこれから出てきますけど、この計画どうこうじゃないですけど、やはりホールの議論、施設の規模やコストだけが先にバーツと盛り上がる。ですけど一番大事なものは、特にできてからどうするとか、どんなふうに使われてどう親しまれて、地域の文化にどう貢献していくかっていうところが非常に大事な部分でありますので、そのあたりの事業展開も後半出てきますけど、そこは我々としても、おそらくこれから一番大事になってくる部分だと思いますし、また新ホールの様々な議論の中で、文化の当事者の方

の影がどんどん遠くなった感が我々事務局としても文化振興課としても感じています。それはこのホールを具体化して前に進むことで、ソフト面ユーザーの方、今後数十年に向けた文化振興の拠点としてのあり方みたいなものはどんどん肉付けして、力強いものにしていきたいなと。そのあたりは、令和2年のあたりで前の計画を揉むときの我々の思いの部分と変わるものはございませんので、しっかり考えていきたいなと思います。

【生駒委員】

今話、ちらっとあったんだけど、どう使われるかということに対して、大ホールを今作ろうとしていると。今のあわぎんホールが800です、地方ホールですからね。あの郷文の中に5階の小ホールとか4階の大会議室で、音楽ができるような場所があります。ところが4階で音出したら5階に聞こえて、5階で音を出したら4階に聞こえるから、どっちかが会議してるときは駄目ですよとか。練習のときを含めて全部、本番のときも、そういう機会しか使えないと。

今度のは大ホールだけやし、小ホールとかもないんで、すぐに隣接した郷文の中の、5階とか4階のホールが、本当に使える状態にしてもらえたらもっとよくなるんじゃないかと。ちゃんとしたホールではないんですけど、それなりに一応使えと。だから音漏れの心配なくて、それから藍場浜公園で阿波踊りの練習しよったら太鼓の音が聞こえてきたりするのを遮音できるというような状態にしたら、大ホール建設を進めると同時に、今の郷文、耐用年数の問題があると思うんやけど、もっともっとあの辺で使い勝手が良くなって、本当に大きな催し物のときに新ホールだけでは部屋が足らんのだったら、こっちの郷文との両方、それぞれリハーサル的に3ヶ所使うときあるんですよ。リハーサル室と小ホールともう1つあって、まわして行って、本番のコンクールとか演奏とか、だから、そういうことも考えたら、あそこが本当に使える状態にしたら、いいんじゃないかな。

【山中委員長】

あわぎんホールとの話ですね。今回、それを一体化して、どういうふうに、施設構成ができるかっていうふうに思います。あわぎんホールの方の内容も、対象にさせていただけたらいいかなと思うんですがいかがですか。

【事務局】

一体的に使うときのご意見とかお声はどんどんいただきたいと思います。議論を切り分けるというのではないんですけど、新ホールがあわぎんホールの方と連携して使われるということは前提として明確にありますので、その上であわぎんホールはこうしたらいいんじゃないかというような意見はどんどん言っていただいて。あわぎんホールというのは今現在動いていて、我々の所管であり、管理者がいてというところがあります。明確なお約束みたいところは、すぐできるできないがありますけど、ご意見はいただいて、我々もそれを受けとめて。

【山中委員長】

やっていただいて、新ホールはフェーズ1だとしたらフェーズ2で最終的にはあわぎん

ホールを改修するような形で、どうしてもなると思いますので。

【吉森委員】

あれも建て方でね、あそこをつなぐならともかく、リハ室をあそこでしてね、こっちへ来て、ああいうときどうするんですか。雨降ったらびしょびしょになってやね、だからちゃんとなげらんだったら結構なんですよ。こないだちょっと図面みせてもらったけど、リハーサル室はないんだっけ、こんなじゃオーケストラ無理、全く控え室がないな。だから、今どきちょっと立派なホールつくって、リハーサル室がないなんてホールはないですよ。

【事務局】

あれは、あくまでも調査のモデルプランであり、設計ではないので。ただ、調査モデルプランの中でも、大ホール棟の4階部分、多目的スタジオは、主に主舞台とサイズ感を合わせているところで、調査モデルプランの中では独立動線で一般利用と切り分けて大ホールと連携して（リハーサル室として）使えるような動線も提示するということまでは出てますので、そうなりましたら今のリハーサル室（ウォーミングアップルーム）っていうのは、リハのサブにも使えるっていう形にもなるかなと。

【吉森委員】

この間見せてくれたのは、4階建てなんですか。

【事務局】

4階ですね。ホールは3階です。大ホールは3階構造。

【吉森委員】

だけどね。例えば1,500入れようと思ったら2階、3階を使わないとあかんわね。そうすると、かなり前までいかないとそれだけの座席がとれないですよ。そうすると、音響的にお客さんが絶対来たがらない。

【佐野委員】

（街のにぎわいに関して）吉森先生おっしゃること、ごもつともで、そういうことを分かった上で、腹くくってですね。ここから新しい街を作るぐらいの、勇気と度胸がないと、これは無理ですね。

僕、徳島に帰ってきて、本格的に生活するにあたってなんでこんなに道が混むんだと。どこに新ホール作っても多分混みますよ。さっき委員長おっしゃったような駐車場なんかこれ、東新町なんかでも駐車場結構あるじゃないですか。うまく何か連携して、そこだけに停めるではなくてですね、駐車場も活性化して。音楽ホール建てても街は繁盛しないんですよ。でもそれを繁盛させるホールにするということのを売りにする。

【吉森委員】

まわりの会社に駐車場いっぱいあるでしょ。営業時間外にお客さん入れないからな。あれを貸してくれたらいいんですよ。

【佐野委員】

そういうこと含めて、そういうことで使えるものがね、多分あるはずなんですよ。

【山中委員長】

例えば民間駐車場も含めて予約できるようにするとか。

【佐野委員】

大体もうね、上演時間もね、例えばクラシックのコンサート、１９時～２１時なんかもう古いんですよ。大学なんかでもモーニングコンサートが一番客入ります。もう１０時半とか１１時でも喜んで来るんですね。文化の成り立ち、文化芸術の成り立ちとか全部をこれから変えていくような形で、考えていかないと運営もすべて。今までの基準で測ったらこれ失敗します。だから吉森先生がおっしゃることはもっともだと思うので、それをわかった上で、やる気だしていく。

なんとなく作って、未来に負の遺産を残していくみたいなことにならないような形で、かなり長期なプランで、この周辺も含めた都市づくりのプランと、このホールの中をどうするかという、我々はここではそのホールの中のことしか。いつまでも駐車場やってたら今日これで終わってしまうので、先行きましょう。

【事務局】

（資料１ 「第３ 事業展開」～「第５ 施設整備計画」について説明）

【山中委員長】

この委員会で、ここで積み残しになってる部分についても決定していくということですよ。よろしいですか。

【事務局】

いただいた意見を詰めていき、今回の意見交換会の全体の議論の中身で、我々としてボリュームアップしていく。また、最終的にはコストの面であるとかスケジュールというのも、具体化していきたいというふうに考えております。

【山中委員長】

先ほど説明していただきましたいろんな運営上の問題（ホールで何をやるのかによって施設を考える等）があったんですけど、指定管理者を早く選定していく手法も最近流行っているんで、どの手法を使うのか、PFI、DBOというやり方、DBであればまた別途、管理者を選ぶということになる。そこも含めて検討していただければいいかなと思います。

これ全く個人的な感想なんですけど、この３、４年でガラッと変わったのが、オンライ

ン配信ですね。あらゆるコンサートやいろんなものがオンライン配信されるようになって、それも、確かにお金かけたほうがいい話なんです、たくさんのお金をかけられて、やってるんです。

もっと市民活動なんかもオンライン配信されてくる可能性が増えてくると、その時に機材や配信設備とか、簡単に使えるホールって多分あんまりないですよ。だいたい機材全部自分で持ち込んでセッティングして、ネット環境もそんなに良くて、みたいなのところがありまして、東京でもたいてい駄目なんです。そういうのをもっとしっかりやるっていうのがね、良いと思うんです。

そうすると席数に関係なく、いろんな収益性が上がったり、或いは、いろんな人たち、県内いろんな人達が聴けるっていう環境がつけられる拠点になる可能性が強いと思います。もっとこのオンライン配信について、もっとしっかり勉強して、機材で。こういうのは流行り廃りがあるのでわかんないんですけども、でもそういう整備はあり得るかなと思います。

【佐野委員】

近年は、我々の発想やコンセプトを超えた新しいホールが生まれています。

【山中委員長】

いろんなところでできてますね。多分できると思いますし、多分5、6年で改築改修していかないと。

【佐野委員】

そのためにホワイエとかにうまくその機能が。或いは小さなリハーサル室とかさっきのあれなんでしたっけ、何か実験工房みたいな。

【事務局】

多目的スタジオ。

【佐野委員】

そういうところで。大ホールでいきなりっていうのは難しい。でももうすぐ、ホールでドローンが飛ぶかもしれない。

【山中委員長】

当たり前になってる可能性がある。

【事務局】

委員の皆さん仰るとおりで、年数経ったホールの場合、ネット環境整備しようとするとなかなかタイミングが合わなかったり、また、普通携帯使おうとしても電波環境悪かったりとかがあるので、インフラとしてのオンライン対応っていうのはもう当たり前にするのと、あと、山中先生おっしゃっていただいたように、配信ですね。

コロナのときって配信ってすごく特別なもので、業者を入れて何百万もかけてやるみたいなことありましたけど、今でも当然スケール感によってはそういうのもあるし、当たり前のオンライン配信もあるのかなと。

その時に、そのホールが、基礎力として備えた通信環境っていうのが出てくるとは思いますので、そこをしっかりと押さえていく。また、拡張するときに、すぐできるような構えを備えておく。これはオンラインだけでなく、普通に公演やるときでも持ち込みですぐセッティングして公演やれるかというのが出てくると思いますので、ちゃんと整えていくことは大事なのかなと思います。

【佐野委員】

事業展開のところでもうちょっと夢のあるものを書いて欲しい。これもうどう考えても5年前か10年前のですから。

【事務局】

事業展開についてもひとつ、骨子案として、今は無難においておりますけども、さっきも仰っていただいた、やるんだったらもっとってところ。

【佐野委員】

夢物語でも良いですから。

【事務局】

そういう意見をいただいたら、我々も背中を押してもらえます。

【山中委員長】

ネット環境は当然ですし、場合によってはいろんなカメラ置いとくと、それだけでも配信しやすい。

【佐野委員】

異分野の人たちともやっぱり交流して、その芸術分野だけでなく、科学の人とか。

【山中委員長】

ドローンカメラでも良いかもしれないですね。

【佐野委員】

前の大学ではその東京科学大学とか、東大とか、医学系や科学系と組んで、いろんなことをやろうとしてるんですね、芸術に対して、芸術以外の人たちの方がやりたいんですよ。そういう時代なんで、ひょっとしたら芸術系のことを専門でやってない人で、趣味で小中高、音楽とかやってて、大学では違うことやって違う職業に就いてる、ひょっとしたらこの中にもアーティストいるかもしれないし、そういう人たちをもっと発掘できるような。大学だとどうしても専攻の人に限られてしまうので、僕は今の大学では、専攻を超えて受

講できる授業をやりたいんです。人材って何か、あるもう決まったセクションの人たちの中から、もうあんまり出てこないかもしれないと思うんです。

ちょっとドラスティックな発想を変えて欲しい、全体的に、さっきの駐車場も含めて。時代はどんどん進みますから、我々発想を引き継いでいけば。

【吉森委員】

ちょっと、こんなこと聞くのなんておかしいんだけど、実際、県民がちゃんと理解してないと思う。例えば、徳島市はこういう文化施設は全部、県に投げてしまったのか。私は徳島市民としてっていうのはね、県民ホール、この際、あそこを県にお願いしますっていうことは、初めはですね、幾らお金出して一緒にやってくださいと、あとの運営はどんな割合にするのかなって心配してた、それ何もない、もう丸投げみたいだからね、県はやりやすいですね。

だけど、徳島市としてはもう、こういうことを一切投げてしまったならね、徳島市民はそう思っていないと思うので、まだ。そこら辺がね、とにかく、はっきりとひとつもしないね。急いでますからったってね、何も急いでそんなこと、まだ何もできてないのにね。

【事務局】

このホールに関しては、県市協調で県立ホールでやっていくということで。

【吉森委員】

それは県が認めてくれることになりましたって喜んでるけどね。県が皆もろてるのに、市に（運営で）お金使ってくださいなんて言わないでしょ。

【事務局】

お金の話はあるのですが、県立ホールとしては、県市協調で、県が主体となってやっていくという方向性であります。先ほどもありましたけど、県は県の文化振興の計画、市は市のビジョンがございますので、それぞれ役割を果たしていく。あと、今現在でも市の文化施設ございます。県についても、複数の施設。

【吉森委員】

市は何もなくなったのにどうして。

【事務局】

この新ホールに関しては、県と一緒にやっていくということになりますけど、今シビックセンターも動いてます。

【吉森委員】

口では一緒にやっていくと言うけど、どういうふうと一緒にやっていくのか。

【事務局】

前の計画でも具体的な役割がそれぞれありました。今回に関しても、市と一緒に協議しながらそのあたりを具体化していきたい。

【吉森委員】

市民は何にも理解していませんね、そのあたり。後藤田知事が、あれは県になってんだからつべこべ言うなと言ったでしょ。じゃあ市民は一切文句は何も言えないんだなと、抵抗しっぱなしで終わりだなと。

【事務局】

逆に市民としても、県民としても意見をどんどん言っていただけたら。

【吉森委員】

知事に言わせれば、あれはもう県にもらったんだから、県がどういうふうにしようが、いろいろ言わないで欲しいとかいう話だったんでね。

【事務局】

市がソフト面でも利用面でもやっていただけたら、これは心強い話です。協定をまいてしっかりと進めていこうということで、現在協議を進めております。

【吉森委員】

何かはっきりしないのはね、協調や協調やって、どこを協調するんですかって。協調ってたって市民の意見を聞くわけでもないし。徳島市の責任ですよ、市民にどういうふうに理解されるかとかね。

【事務局】

これがスタートになってきますので。

【吉森委員】

とにかく出発がおかしい。

【事務局】

今日も徳島市から来ていただけてますし、一緒にやっていく。

【吉森委員】

どうやっていくんですか。

【事務局】

まさにこの場におられるということが、一緒にやっていくってことですから。

【佐野委員】

でもやっぱりそういう機運が醸成されていくってすごい重要なので。

【吉森委員】

市では手に負えないから、県でよろしく願いしますと、県のどうぞ自由にやってくださいというふうにしたらはっきりするんです。それが、まだ紐ついでってやね、県という話ながらやっていく。

【山中委員長】

徳島市民は徳島県民なので、逆に言うと、崩壊しちゃってるんですけども。行政の市としての協力っていうのは当然あり得ると思います、いろんなソフトとか。

【吉森委員】

なんかすっきりしないんだよな。

【山中委員長】

どうですかね市民ホールと県民ホールでこう、優先度が違うとか、利用者の優先度が違うとかそんなことってあるんですか。

【吉森委員】

いや市だと、よその市もそうですけど、市民は割引ですよ。県立としてやったら、県民の皆どこに住んでる人も。

【山中委員長】

市民も県民っていう話になっちゃうんですけども。もうそんな不公平じゃなくて、どっちが優先するかみたいな、とかそういう話があって、関係するのかなと思って聞いてみたんですけども。

ウォーカブルなまちづくりという話も知事ともいろいろしていますけど、そういうのをやってもらって、難しいっていうのもありますし、どういう役割分担を見せていただけるか、結構重要ではあります。

【事務局】

まさに最初の一步としてのこのホール整備でありますので、先ほど佐野委員から、いかにもな計画という意見をいただきました。この骨子案を作るときに、最初から勝負ではなく、ちょっとおとなしめにしたところがございます。2回目に向けても、飛び道具感すぎると怖いところもあり、あのとき勝手なこととしてなります。大事な施設だと思いますので、しっかり練って、また次、ご意見いただけるようなものにしていけたらなと思います。

【佐野委員】

今までのホールのね、もちろん経験を集めてくるのはいいと思いますけど、これあくま

で先行研究にしか過ぎないので、なんかこれやっぱり独創的なオリジナリティもうちょっと出して欲しい。それが売りになれば、県民もついてくるんじゃないですか、自分たちが参加してるんですよ。

【事務局】

どうしても、この数年の議論する中で、ディフェンスが強いんですよ。

【吉森委員】

県民としては、県がやることについてこうして欲しいとかある程度は言うでしょう。だけど徳島市としては、もう言えないもんねそれ、言えない。

【事務局】

県立ホールとしてやる以上、市民でも町民でも村民でも、皆さんどんどん言っていたらと思います。

あと先ほど、佐野委員の方からも、山中委員長の方からも、ここ数年で大きくいろいろ変わっているというところの意見をいただきました。我々としても、特にですねプロモーターの方とかとも話してみても、コロナに関係あるないにかかわらず、ここ数年ですごく公演の形っていうのが変わってきたなというのは思っています。令和2年に、ホールの検討をしているときには、大きいホール造ったらいろんなものができる、それは土台としてあるのですが、この2、3年でどんなに大きいホールを作っても、アリーナやスタジアムでやっているアーティストは来てくれない、その線引きっていうのがものすごくはっきりしてきたなっていうのを感じています。

ですので、そういう時代になったときに、ホールとして何を目指していくかというのは本当に大事だと思いますので、委員の皆さんからいただいたところで今後数十年を見据えて、新たにここで何をやっていくか、どういう位置付けになるのかっていうのも、改めてしっかり盛り込んでいきたいなと思います。引き続きご意見いただきたいと思います。

【吉森委員】

こないだの話ではね、ステージの幅が17m、郷土文化会館と同じなんですよ、オーケストラがのれない、皆、降りてるんですよ、演奏する人はね。同じようなものを造るのかなと、ね、立派なホールで、いや、郷土文化会館と同じ幅しかないという、17mってそうなんですよ、郷土文化会館が17m。それをまたこの県民ホールでそれを作ってね、それこそオーケストラはのれないですよ。

【事務局】

舞台幅については、今回18m、10間程度、プラスオーケストラピットと、特に郷土文化会館と大きく違うのは、袖のサイズが全く違ってきます、奥行も違ってきます。ですので幅だけでは語れないところです。

【吉森委員】

大きいのはね、奥行があればね。

【生駒委員】

やっぱり70人、もういっぱい入れても70人ぐらいの感じで、いっぱい。大人数のオーケストラだったら入らない。今回のプランでいくと。

【事務局】

あわぎんホールが幅が17mで奥行きが約12m。今回のモデルプランベースですけれども、18m掛ける奥行きが18m、同じ奥行きというところですよ。

あと使い方によって、オーケストラピットを標準で備えた場合に、前舞台としての使い方も出てきますので、舞台的な使い方にはかなり幅が出てくる。奥行があるということは、上下の動き方も変化が出てきますし、そもそもあわぎんホールの上下袖のサイズとは全く違ってきますので、このプロセニウムの開口の17m、18mだけで、すべて比較できるものではないかなと認識しております。

【生駒委員】

いろんな話ありましたが、ちょっと事業展開の部分の話をしたいんですがね。最近アウトリーチを、徳島交響楽団の定期演奏会のソリストの成田達輝さんという方にワークショップと、あと、コンサートみたいな形でやってもらった。徳島中学校で、それで、参加した人は徳島交響楽団のジュニアオケと、市立高校のオケからちょっと。

最初予定していたのが、コンサートも全部含めて2時間以内で終わる予定でいたんですけど、成田さんがワークショップの方がすごく楽しくなっていて、ワークショップに2時間半使うペースで、コンサートを含めて3時間以上のアウトリーチをしていただいて、子どもも先生方も親も来ていたんですけど、もう大喜びで。それで、1週間後の、定期演奏会のときには、そういう人たちも参加してくれたんですけど、あいにく満席で当日券も売れなくて、もうみんな帰ってくださいと、もう50人ぐらい帰ってもらったんですけど、結構、アウトリーチの効果があって、子供たちはもう目を丸くして。このワークショップの方がね、だけど、間近にテクニックを見せてもらったらすごくもう、感心して。

【佐野委員】

だからさっきのオンラインなど使えば、実は、実際のアウトリーチよりもオンラインの方が近くで見えたり、横からも映したり。

【山中委員長】

もうオンラインセッションっていう形。

【佐野委員】

レッスンだって横からも後ろからも全部見れるんだよね。

【生駒委員】

プロの人でも、そのレッスンで勉強するっていう人が現実にはいます。

【佐野委員】

そうすると、有名なアーティストをこっちに呼ばなくても向こうでやってもらえますね。

【生駒委員】

ついこの間、前の週にリオデ音楽祭があって、山下さん、ボーカルの、日本音楽コンクールで一番だった人とか、ヴァイオリンの水野さんも一番だったりとか、助任小学校に来てくれたらしいんですけど、子どもがまず会ったときに、ビブラートにびっくりしたと。あと、ボーカルの声、普通にテレビとか何とかで、歌謡曲とかいろんなポップスとかを歌ってるような歌い方ではないのを生でボンと聞いて、最初皆ちょっと笑い声が出るぐらいにみんなびっくりしたと。だけど、童謡みたいな曲も歌って、そういう意味では喜んでたようで、何かアウトリーチがそういう裾野を広げる。今までずっとあったけど、今回特に思いました。

【佐野委員】

ただ予算なんですよ。 「アウトリーチ」という言葉からは、どうしてもただ同然できてるって思ってしまう。言葉変えた方が良くと思うんですよ、十数年アウトリーチやってるんですけど。アウトリーチには、そうした予算の課題がどうしても絡んできます。

【事務局】

特にその辺りしっかり考えないといけません。

【山中委員長】

お金はちゃんと出してもらう方がいいですよ、ちゃんとマネタイズしていく方が価値があって。

【事務局】

そうしないと、なかなか効果が見えてこないし、続いていかないということもあります。

【山中委員長】

それが何か、金額というか寄付でもいいと思うんです。受ける人は払わなくてですね、寄付で集めたお金で来てもらっても。そうするとちゃんと金額が見えるので、そういう形の方が。

【事務局】

特に県立ホールの場合だと、近くの人を呼んで終わるっていうのはなかなか難しいところがありますので、さっきのオンラインの話も含めて、この効果の重要性というのはすごく事業しているとわかるのですが、どこまでやるべきか、どういう効果で、というのは

悩ましい点です。

【佐野委員】

欧米のような文化がね。

【山中委員長】

でも、最近クラウドで結構集まったりしてますんで、目標まで集めましょうみたいな、じゃあこれできますってなると、50万で集まってやるみたいなのもあるので。もう全然違うと思う。

【事務局】

ご意見を踏まえまして。

【檜委員】

この資料とかは、どのような形で、文化団体の方達にお知らせされるのでしょうか。

【事務局】

この会議資料も文化団体の方に、並行して送らせていただきながら、いただいた意見をまた次の資料に反映していく。あとは、できるだけ早いタイミングで、この会議の内容も併せて、ホームページでも公表していきたい。議事の内容は、また委員の皆さんにも確認していただいて、遅れることなくアップしていきたいというふうに考えています。

【檜委員】

あわぎんホールが残り10年強ですよ、今52年経ってて、目標65年。だからその後のこととかも、今日は時間がないのですが、今後どういうふうに活用するのか、その跡地がどうなるのかっていうことを含めて、あそこに建てるのであればやっぱり必要になってくると思うので教えてください。

【事務局】

あわぎんホールは、あわぎんホールとしてのあり方の議論をちゃんとしかるべき時にやると。あわぎんホールはホールだけではなくて、あそこがなくなったら県展とかもできなくなるわけですよ。今回に合わせた議論でパッと何か考えるというよりは、ちゃんと残る寿命の中で、然るべきタイミングでしっかりした議論をしなければなりません。

それとあわせて、このホールと隣接するということで、しっかり使い倒すというところですので、議論を逃げるというのではなくて、大きい話ですので、ちゃんとあわぎんホールはあわぎんホールでしっかりやっていきたいと思います。

【檜委員】

わかりました、ありがとうございます。

【山中委員長】

みなさま、よろしいでしょうか。そうしましたら、事務局に議事進行をお返しします。

【事務局】

以上で、本日の意見交換会を終わります。皆様、遅くまでありがとうございました。

以上